

---

# リハビリテーション天草病院だより

---

2016年4月

No. 78



発行 埼玉県越谷市平方343-1 / (医) 敬愛会広報委員会

---

# 在宅療養において 当法人諸施設が果たす役割

医療法人敬愛会 理事長 天草 大陸

超高齢社会対策として、昨年の介護報酬改定及び今年診療報酬改定は「医療と介護の切れ目のない連携」に重点が置かれました。

そこで本稿では、「寝たきり」の原因疾患の約半数を占める脳卒中について、そのリハビリテーション（以下、リハビリと略）を中心に「医療と介護の連携」を述べることにします。

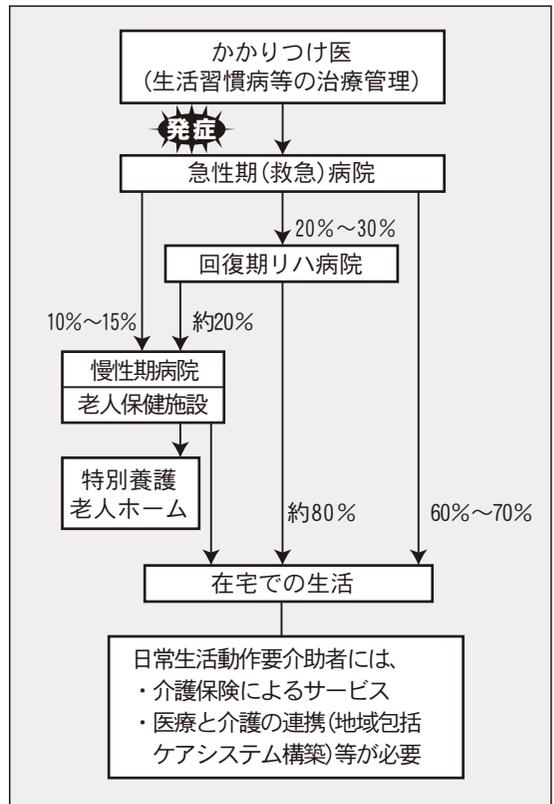
当法人全体として、脳卒中発症2か月以内に機能回復のために開始する「医療」（回復期）から生活再建のために行う「介護」（生活期）までのリハビリを総合的に提供できる体制を整える必要があることから、幾つかの施設を有しております。その施設として、入院リハビリ（リハビリテーション天草病院）や入所リハビリ（介護老人保健施設シルバーケア敬愛）、在宅療養している方に実施する訪問看護や訪問リハビリ、訪問歯科、通所リハビリなどを設置・運営しております。以下、これらの施設について、その役割を「在宅療養」との関係で述べます。

まず、右図の「脳卒中医療・介護の流れ」に目を通して概略を理解していただきたいと思います。

## ■入院リハビリと在宅療養

当院の場合、在宅退院をされる方は約80%ですが、全員が日常生活動作が自立しての退院ではありません。多くはありませんが、相当数の方が日常生活で介助を要する状態で退

図. 脳卒中医療・介護の流れ



院しております。そこで、入院リハビリでは、患者さんの障害の程度にもよりますが、できるだけ介助の量を減らすことに重点を置いたりリハビリを行います。このリハビリを実施したか否かが在宅での療養生活に大きく関わってきます。「寝たきり」になるのか、少しの介助で社会参加できるのかの分かれ目になるのです。それ程、入院リハビリと在宅療養は深い関係にあります。中途半端な状態で急性期病院からの自宅退院は禁物です。

---

## ■入所リハビリと在宅療養

ここで言う「入所リハビリ」とは、老人保健施設（以下、老健と略）に入所して行うリハビリを指します。「入所リハビリ」の役割は多岐にわたりますが、特に、当法人が設置する老健では、在宅療養との関係で言えば、下記のこと重点を置いています。

障害を抱えながらも在宅生活を送る方の中には、ひょっとしたことを契機に日常生活動作が落ち込み元に戻らない場合があります。そういう方に対して、1～2か月の間、入所していただき「短期集中リハビリ」を実施し、元の状態に戻し、自宅での健やかな生活に復帰していただくことです。

## ■訪問看護と在宅療養

他の医療機関(多くは診療所)の医師が実施する「在宅医療(往診)」と「訪問看護」は表裏一体の関係にあります。内科的に重度の在宅療養者に対する極めて重要な施策です。また、後述する「訪問リハビリ」を円滑に実施するためにも、当法人の「訪問看護」では、「体調を整えること」が大事であるとの観点から業務に取り組んでいます。これも人によっては、在宅療養を続けていく上で欠かせません。

## ■訪問リハビリと在宅療養

自宅を訪問してのリハビリも大きな意義があります。施設での訓練室で療法士と行う1対1のリハビリでは、例えば、ベット回りの諸動作遂行が可能であるのに、自宅では困難又は不能の方がいますが、これでは全く実用的なりハビリが訓練室で行われているとは言えません。このような方には、実生活の場でリハビリを実施しなくてはなりません。「出来る日常生活動作」と「実際に行っている日常生活動作」が、かけ離れている方が意外に多いのです。そのような意味でも「訪問リハビリ」

には大きな意義があります。

## ■訪問歯科と在宅療養

「訪問歯科」では、いろいろな理由から通院することが困難な方に対して自宅に伺って歯科治療を実施します。食事が楽しく美味(おい)しくとれることは誰しもの願い、かと思えます。当法人の歯科が実施する「訪問歯科」では、各種の歯科疾患に対応するだけではなく、「楽しい美味しい食事」を目指して、脳卒中の後遺症として圧倒的に多く認められる障害のひとつである、口腔機能が低下し、摂食機能障害を有する方に「口腔リハビリ」を提供します。このリハビリの効用は、肺炎防止に大きな役割を果たしています。在宅療養を続ける上で一番大事なことは、肺炎防止と骨折防止であることは間違いありません。「訪問歯科」も在宅療養に寄与しているのです。

## ■通所リハビリと在宅療養

「通所リハビリ」は、「デイ・ケア」とも呼ばれ、「通所介護」とか「デイ・サービス」と呼ばれるものとは異なります。「通所リハビリ」では、あくまでも「リハビリ」が中心であり、ここで言う「リハビリ」は、「生活期リハビリ」と言われ、当たり前ですが、当法人の「通所リハビリ」では、既に獲得した日常生活動作能力を維持しつつ、生活の質を高めるためのリハビリを行っています。在宅生活を健やかに送っていくためには必要不可欠なサービスです。当法人では、病院と老健で実施していますが、大きな特徴は、理学療法士、作業療法士、言語療法士が総勢30人以上でこの任に当たっていることです。

その他、ケアプラン作成の事業所(居宅介護支援事業所)や「地域包括支援センター」なども設置運営していますが割愛致します。

## 「職場復帰をめざして」

春日部市 布施 寿一

それは平成27年11月5日のこと。一人で残業をしていた私の体から何の前触れもなく、右半身の感覚がスーッと抜けていきました。次の瞬間、椅子から転げ落ちて言葉や大半の感覚を失った私は、助かりたい本能からわずかに残った運動能力に頼り、あお向けの形で何十分もかかって部屋を脱出。エレベーターに乗り込み、1階で私を発見した人が救急車を呼んでくれました。

「左視床出血」右半身の自由だけでなく、一夜にしてそれまで慣れ親しんだ日々の生活と社内や顧客との人間関係を失った私には状況の激変がうまく理解できず、半分死んだような気持ちになりました。「まだ62歳の私なぜ？」と言うのが偽らざる気持ちでした。喫煙はやらず酒もたしなむ程度、同世代の友人と比べても若く見られることが多く、健康には自信がありました。しかし、冷静に振り返ってみると食生活に問題があり、近年の健康診断では管理栄養士から警鐘をもらっていました。無類のラーメン好きで、週に3回はスープまで飲み干すことを自慢にしていたし、甘い物には目がなく、チョコレートはほぼ毎日一箱食べていました。要するに油断・慢心です。

約1ヶ月後、天草病院に転院して、ようやく平常心を取り戻すことが出来ました。スタッフは職務に忠実で明るく、組織としてうまく回っていることはすぐ分かりました。その顕著な一例が週に二度の集団浴です。次々に訪れる大勢の患者達をスタッフが手際よく

介助してくれるのですが、冗談が飛び交い、さながら「千と千尋の神隠し」の浴場風景となるのです。

自在な歩行に加え、右手の動きを取り戻すことが必要です。言葉だってまだ完全ではありませんから、その意味でこれからハードルは沢山あります。それでも、なんとか職場復帰を果たしたいと思っています。ここまで回復出来たのも療法士の先生方をはじめ病院関係者の皆様のおかげです。ありがとうございました。

(投稿日 平成28年3月20日)

## 「初めて大病を患って」

杉戸町 橋 久美子

以前から主人には、ずっと言っていたことがありました。「去年の病院の定期検診行っていないんだから今年は必ず行かないと！」

平成27年8月4日。あの日は、前日の涼しさから一転、暑さが逆戻りし、外に出られない程の暑い一日でした。私は、「もう何日か休んだ方がいいんじゃない？」と主人に言ったのですが「人が居ないし急には休めないから」と仕事場へ行ってしまいました。その夜、19時半過ぎ……。主人が帰ってきて早々、全身が攣(もつれ)ると言ってその場から起き上がれなくなり、呂律が回らなくなり直ぐに意識が混乱して「うーん、うーん」としか言えなくなりました。私は、119番をして主人は近くの病院へ救急搬送されました。

診て頂いた病院の先生の診断は、極度の脱水で徐々に血液がドロドロになって少しずつ血管が詰まっていって脳梗塞になってしまったそうです。主人の年齢「49歳」では、脳梗塞になるのは滅多に無いそうです。幸い発見が早く新薬とカテーテルを施してもらって、

「右足の麻痺はほとんど無く右手もリハビリをすれば生活をする分には大丈夫。ただ、言葉のリハビリは時間がかかると思います」と言われました。そこで紹介して頂いた病院がリハビリテーション天草病院でした。

転院したその日から早速リハビリの先生方が挨拶がてら主人の状態を診に来られ今後のリハビリ計画を立てて行かれました。後遺症で一番重かったのが言葉でした。ある程度、普通に会話は出来ませんが咄嗟に頭に浮かんだ言葉や文章が言葉に出来ずに詰まって、言ったつもりが違う言葉を言ってしまう。主人にとっては、かなりのストレスになっていたと思います。私はただ、背中をさすってあげることしか出来ませんでした。最初は、右手で箸を持って食べ物を取ることが出来ませんでした。リハビリを受けて以降は文字も書いてお箸を使って食べ物も食べることができるようになりました。毎日、リハビリをする度に日常会話やひらがな、カタカナ、漢字が読めるようになり更に書けるようにもなりました。

今現在は家に帰ってきて、数字のリハビリを続けています。3桁、4桁の数字を羅列し読む訓練をすると分からなくなりパニックになってしまって全然言えなかったのですが、これも手のひらや机に指で書いてから口に出すと言う方法に変えてからスラスラ読めるようになりました。私と主人は、目から鱗でこの方法は良いねと2人でハイタッチする程、嬉しかったです。それと同時に先生方に改めて2人で感謝をしました。退院してからも外來で言葉のリハビリはしばらくの間は通うようになると思います。主人がリハビリでここまで回復することが出来たのは、担当医の先生・看護師さん・介護士さん・各療法士の先生方、それと同室患者のご夫婦。大変恵まれた環境で約2ヶ月半のリハビリ入院を皆様の

お力添えで最後までキッチリと出来たからと思っております。本当に感謝の心で一杯です。ありがとうございました。

(投稿日 平成27年11月18日)

## 「感謝 感激」

越谷市 池ノ谷 はつ

平成27年12月6日の午前中、急に肩から指先まで痺れが来ました。足の方にも来たので歩けない状態になってしまい救急車を呼び越谷市立病院へ入院しました。

これまで病気1つしなかった私が……。頭の中が真っ暗になりました。検査の結果、脳出血であることが分かりました。担当医の先生から「早かったので軽く済んで良かったですね」と言われた時は気持ちがほっとしました。

平成27年12月25日 リハビリテーション天草病院へ転院し広い建物で驚きました。食事は入院患者一人一人の体調にあわせたバランスの良い献立で三度三度頂ける。毎日、午前午後1時間以上の専門リハビリがあり作業療法士の先生と調理訓練も行いました。また、生活リハビリにて習字を書いたりカラオケもあり久しぶりに「だんな様」を歌わせて頂きました。入院当初はお風呂に週2回介助してもらい入れてもらっていましたが、現在はリハビリのお陰で1人でお風呂に入れるようになりました。また、杖をつかずに歩けるようになり手の痺れも大変楽になりました。退院も間近となり今回2ヶ月半の入院中、大変お世話になりました。皆様お身体を大切になさって下さい。

(投稿日 平成28年3月1日)

## 訪問リハビリについて

リハビリテーション事業本部  
地域リハ部 部長 古澤 浩生

当法人は従前より訪問看護ステーションの中での訪問リハビリを実施しておりますが、併せて平成27年8月から、病院で介護保険適用の「訪問リハビリテーション」を開始いたしました。現在20数名の方にご利用いただき大変好評を頂戴しております。平成28年度は専任の療法士を増員し更に皆様のご期待に応えたいと思っています。



(ご本人様のご了解を得て写真を掲載しております)

訪問リハビリでは、当院の療法士が利用者様の居宅を訪問し、生活スタイルや患者様・ご家族様の希望も考慮しつつ、主治医の治療方針やケアマネージャーのケアプランに沿ったリハビリ訓練を実施し、ご自宅において可能な限り自立した生活が送れるよう支援させていただきます。

訪問リハビリの内容は個性性が強く、利用者様の状態や自宅環境の実情に応じて柔軟に実施しますので、たとえば次の様にお一人お一人力点が異なります。

- ・療法士による個性性を重視した運動療法
- ・移動手段(歩行や車いすなど)の検討・練習

- ・入浴や更衣など身の回りの動作の練習、家事動作の練習
- ・言葉が話しにくい方やうまく食事が食べられない方に、どのような工夫が必要であるかの検討
- ・必要な福祉用具や住宅改修についての検討(手すり・車いす・自助具・コミュニケーション機器等)
- ・ご自宅で行える運動や動作の指導(ご本人様・ご家族様・必要に応じて介護サービス担当者への指導)



退院された利用者の皆様がこれからの人生に明るい展望が持てるよう、身体機能・動作・作業のプロとして懸命に支援させていただきますので、当院の訪問リハビリをぜひご利用ください。

訪問リハビリをご希望の場合、当院主治医の「訪問指示書」及び介護保険認定が必要となります。詳しくは当院総合受付または担当ケアマネージャーへご相談ください。

【訪問リハビリのご相談窓口】

リハビリテーション天草病院

## 在宅療養における連携の重要性を考える

訪問看護ステーション敬愛 所長（看護師）上杉 都子

安心して在宅療養を送っていただくためには質の高い在宅サービスを提供することが重要です。

病院退院時に、医療連携室あるいは相談室が在宅サービスを行う各事業所を集め、退院前カンファレンスを開くことが増えてきました。これは退院される方の入院中の問題点や、今後起こると思われる問題点を見つけ出し、スムーズに在宅療養へ移行するためにはどうすればよいかをみんなで話し合う重要な場となります。在宅サービスに係わるスタッフが問題点を共有し、各職種特有の視点で解決策を考え、それらのことをクリアして在宅に戻ることが、ご本人様・ご家族様の安心感につながります。

在院日数の短縮化が進み、医療依存度の高い方も早期に退院しています。たとえば、人工呼吸器を装着したままの難病の方や、重症疾患の小児の方、食事が食べられなくなったため胃瘻やIVH(中心静脈栄養)という点滴をしている方、人工肛門等を装着している方などは、様々な不安をお持ちのまま退院し在宅生活へ切り替わることとなります。そのようなときに私たちがそばに寄り添うことで、不安が少しでも和らげればと考えています。各専門職が的確なアドバイスをすることはとても有意義なことだと考えています。

また、切れ目のない在宅療養を送っていただくには、在宅での定期的な担当者会議があります。そのときどきの状態によって起こる問題にすぐに対応できるのでかなり有意義だと考えます。さらに訪問時の状況に変化が

あった場合にはすぐに担当ケアマネジャーに連絡を取ることで問題が大きくならないうちに解決できます。このようなことから在宅での定期的な担当者会議は、ご本人様・ご家族様に安心して生活していただくための重要な会議となり、まずは顔の見える関係作りが必要となります。

また、最近ではよく地域包括ケアシステムという言葉が聞かれると思います。切れ目なく地域の人々をサポートするために、医療と介護・予防のサービスが連携し一体化することです。専門的な在宅サービスを担う各職種の方たちが上手に連携していくことで、地域で生活している方、療養生活をしている方、皆様に本当に必要なサービスを、必要な分だけ提供できる体制作りを目指しています。その中でも訪問看護・訪問リハビリは重要な位置を占めるサービスと考えられております。そのためにも皆様に選ばれ、喜んでいただけるサービスを提供できるよう今後も努力していきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

### （担当者会議の風景）



### 【訪問看護のご相談窓口】

訪問看護ステーション敬愛  
連絡先：☎048-971-0788

## 編 集 手 帳

＊いつものことながら、表紙絵や「お便り」の患者さんの力作には感動させられます。努力することが、いかに大切であるかを私達に教えて下さいます。患者さんの教えを無にしないように、職員一同、気を引き締めてリハビリ治療・看護等に、常日頃、勉強を怠らざる邁進して参りたいと存じます。「患者さんから学ぶこと」に最大限努力します。

＊患者さんの必死の「身体機能を良くしたい」という気概とは裏腹に、政治の世界からは「日本を良くしたい」という動きが私達に伝わって来ません。政治家の不祥事ばかりが目立ちます。政策面では、景気ひとつ取っても、一応、自民・公明政権は「アベノミクス」を打ち出しており、今の景気を何とかしなけれ

ばならないという思いは伝わって来ますが、野党にいたっては「失敗だ、失政だ」と大声で叫ぶだけで、何一つ対案を打ち出しておりません。打ち出すだけの能力が無いと国民に思われても仕方ありません。

＊「国民の生命と財産を外国の恐喝や侵略から断固守る」という「防衛」に関する法律にしても、これまた、野党は「戦争法だ、憲法違反だ」と騒ぎ立てるばかりです。彼らは本当に、「平和、平和、話し合い」と念仏を唱えていれば、日本の平和が実現すると考えているのでしょうか。現に、中国は南シナ海を要塞化し東シナ海では尖閣諸島で日本に圧力をかけていますし、北朝鮮は核武装を着々と進めているのです。「憲法違反」なら何故「憲法改正」を打ち出さないのでしょうか。

(理事長 天草大陸)

## 当法人施設が取得する第三者評価認証

患者さんが病院を評価するには、その病院自身の「自己紹介」も参考になりますが、第三者の評価も重要です。当院では「病院機能評価機構」と「ISO」の認証を取得してます。

なお、老人保健施設でも「ISO」の認定を受けています。



### 表紙のことば

当院には、脳血管疾患・骨折などによりリハビリを必要とする患者様が入院されていて、毎日リハビリを頑張っています。リハビリで忙しい日々ではありますが、少しでも気分転換が図れるようC病棟において、患者様・スタッフと一緒に「ぼかし絵」で桜の製作に取り組みました。

手足が思うように動かない患者様、言葉がスムーズに出てこない患者様、1人1人抱える障害は様々ですが、皆さん積極的に参加され、素敵な桜が出来上がりました。

C病棟広報スタッフ